



名古屋の専門ショップから購入したポルシェ 911をガレージの納める副島さん。この部屋で一人でクルマを見ながら飲むお酒は格別。



05 GARAGE LIFE EXAMPLE

ポルシェが眠るガレージは、趣味部屋から眺める宝箱。

佐賀県 副島邸

今までマンションに住んでいた副島ファミリー。

消費増税がきっかけとなり新築ガレージハウスをプランニング。

親身になって手伝っていた住宅メーカーのデザイナーとともに納得のできるガレージハウスが完成した。

photo/kouji-NAKA-YAMA(中山二) text/Jun-ISHIHARA(石原 淳)

special thanks to セーフティーライフ

phone/052-221-8684 http://www.safety-l.com



2014年4月1日、消費税が3パーセント上がることが決まっていた。住宅の金額に対しては大きなウェイトを占める消費増税は、新築住宅の販売だけではなくクルマの販売など消費に大きなきっかけとなつた。今回、取材させていただいた佐賀県在住の副島さんも消費税が上がる前に、新築のガレージハウスを建てたいと考え2年前から土地を探し、住宅メーカー6社に依頼して土地探しからお願いをした。今まで、マンションで暮らしてきた副島ファミリーは、大きくなってきた2人の愛娘(さゆりちゃん6歳、ゆかりちゃん4歳)に子ども部屋は欲しいというのも大きな要因の1つ。

愛車ポルシェ 997 GT3は、10年間貯金をして購入したクルマだが、今までマンションの立体駐車場に止めていた。奥さまのクルマ、BMWミニ

も駐車場を借りていたが今回、新築の住宅を建てるにあたって奥さまから、「ビルトインガレージを建て、ポルシェはガレージで管理しよう」と嬉しいお言葉。ご主人は土地を決めた後、住宅メーカー『積水ハウス』の佐賀支店の担当者にはビルトインガレージにすること、そして子ども部屋は必ず欲しいことを伝えプランニングはスタート。ただし、今回建てる場所は駅まで900mの商業地域で人通りが多かったので、『積水ハウス』ビエナをベースとしリビングを3階にするプラン。今までマンション暮らしだため、カーテンがなくとも人目を気にせず暮らすことができたので、今回も人の視線をなるべく考慮するなどデザイナーが提案をしている。

ガレージはポルシェ 997のボディがホワイトのこと

を意識して、シックな雰囲気をイメージ。すると担当デザイナーから、ブラックを基調とした華麗な壁纸を提案。そしてガレージ横の約6畳の趣味部屋との間に大きなFIX窓ガラスを入れようなど担当デザイナーもクルマ好きの副島さんの気持ちを理解してくれ積極的に提案をしていただき、なんとクルマは低いポジションから眺めたほうが美しいと床面は極力下げるなど工夫を施した。そして友人が先に建てたガレージにはなかった排気ガスを吐き出すシステム「EG WAY OUT」を建築時から設置することを念頭に入れモーターの取り付け部などを緻密に計算。その結果、EG WAY OUTが問題なく設置することになった。ただし、ガレージのサイズとクルマの大きさからサイズを割り出し、アタッチメントの寸法を標準より50mmオフセット変更し、ガレージにジャストフィットするように調整したところが、『セーフティーライフ』の長谷川代表。

05

趣味のクルマはガレージのなかに。
普段の愛車はカーポートと区別。

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF FUKUSHIMA



05 PLANNING DATA & MATERIALS

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF FUKUSHIMA

商業用の壁紙を採用することで、
重厚感あふれる渋いガレージに。

暗いトーンの壁紙を希望したところ、店舗用に使う壁紙のサンプル用意したといい住宅メーカー。コーディネーターが希望から見つけたものだ。



ガレージの床材に採用されたのは、「名古屋モザイク」が発売するシクロイド。300角の厚さがあり外用のものをガレージに敷き詰めた。



その結果、排気ガスはいっさい室内に漏れることなく「人目を気にせず、ガレージのなかで暖気運転ができるほか、ガレージのなかが排気ガスで汚れることがないのは嬉しいですね」と語る。排気ガスの汚れが付着せず、2390mmの幅の大きな窓ガラスを掃除しなくていいことは、副島さんにとっては排気装置を設置した結果でもある。またミニカーを飾るためにコレクションボードの設置を趣味部屋に予定していたが、急速ポジションを変更できるラックにするなど、住宅メーカー側の細かい配慮もプラスに働いた。マンションで暮らしていくことは、近所に気を使ながら仕事を終えてドライブしていたが、最近は家族にも

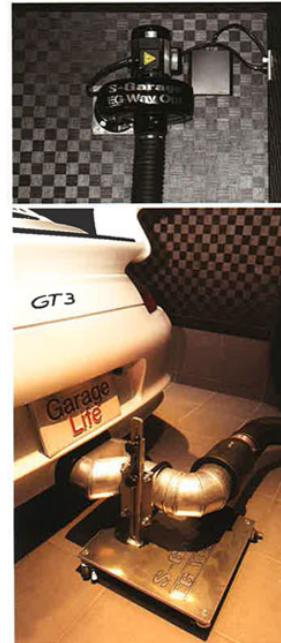


上／あらかじめピクチャーレールを用意してイラストを描ることを想定して設計。ステンレスの見切りが高級感を演出している。
下／ミニカーやなどを飾りたい、ショールームのようにしたいというリクエストから、可動式の棚が用意され任意に位置を移動できるようになっている。

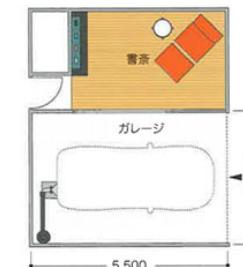


ガラス張りの廊下を用意したこと、圧迫感なく開放感のある部屋となった。床材は落ち塗りしているウォールナットが採用された。

EG WAY OUT の標準タイプにアタッチメントを5cm アジャストさせた。マフラーからの排気ガスは、強制的に屋外に放出される。



サンウェーブ製システムキッチンに、コレクションボードを組み合わせてダウンライトを入れてコレクションを展示するようになっていて。窓から差し込む光がまぶしいくらいのリビングだ。



P PLANNING DATA
所在地：佐賀県
施工主：副島さん
竣工：2014年2月
構造：RC鉄筋コンクリート
敷地面積：330m²
延べ面積：286m²
愛車：2007年式ポルシェ 997GT3

O OWNER'S CHECK
■一番気になるところは？
音音からクラムのシルエットを楽しめる眺め。

■ちょっと失敗したところは？
ガレージ前のアプローチがやや短く、クラムの車高が低いのでつらい。

■読者へのアドバイスを？
排気システムは悩んでいたら、つけたほうが多いですよ。ガレージの中が汚れないし、書斎には良いがありません。



02

長く愛せて、しっかり住める
一生に一度の家を建てる。

栃木県 加藤邸

男なら一生に一度、家を建てたい。

せっかくだから、オーダーメイドで好きな家に住みたい。
そんな希望をかなえてくれるのが住宅メーカーや建築家だ。

“ゆっくりとアントイークになる家づくり”をテーマに掲げる、
建築デザイナー・加藤伯氏がガレージのある自邸を建て、趣味を謳歌している。

photo/Yoshihiro ABE(阿部吉泰) text/Jun ISHIHARA(石原淳)



上／ガレージにはチャール製のオーバーヘッドドアを設置。床面は大きなタイルを敷き詰めた。加藤さんの愛車、1965年式モーガンが収まるガレージ。左下／壁紙に注目してほしい。壁紙をあらった室内用の壁紙を大胆に採用。クラムがなければ節屋といっても過言ではない。



「レジデンリーホーム」加藤氏が家づくりに掲げるコンセプトは、いつもと変わらぬ“ゆっくりアンティークになる家づくり”。フランス、イギリスと旅行に出かける加藤氏は、日本にも美しい建物を残したいと設計デザインに励む。加藤氏いわく「どの分野にも、長い歴史を経て今に続くものがあります。クラシックカーは昔のデザインが今でも愛され続け、ブランド品とよばれる名品は、昔からデザインを変えることなく生産し続けられています。それには明確な理由があるのです。」

加藤氏ご自身がクラシカルなものに興味を持ち、自ら体験しているため、その言葉には説得力がある。現在の愛車は1965年式モーガンやシトロエン

2CVで、他にもクラシック・ミニやフィアット500を所有された経歴を持つ。時計、ワイン、葉巻などもコレクションし蓄めており、それらがなぜ今でも愛され続けているのかを日々研究している。そしてそれは、住宅のデザインにも反映された。昔からヨーロッパ、欧米で残された住宅デザイン在日本に持ち込み、家族代々受け継いでいくような家を建てることに精力的に励んでいる。

今回撮影させていただいたのは、シャトーのような



上：昔々の思い出の写真をピンナップとしてガレージに展示。一枚1枚に思い出があり、眺めているだけでも楽しい。下：海外の视察旅行の際にお供するラクダたち。趣味の部屋にもコレクションしていく出番がくるまでは美しいインテリアとして時を過ごしている。

を入れてレトロモダンを表現している。クルマも今までは選択肢としてなかったフェラーリ348ts。もちろんそこには理由がある。イタリアンデザインの曲線美を理解している加藤氏は、その集大成を表現しているのがクルマではないかと語る。限られたスペースのなかで、最高のパフォーマンスを出すことが求められるマンは、研究が繰り返し行われ、その結果、形として表現されているのだ。イタリアンデザイン、イタリアンカルチャーを理解してからのクルマ選びは大人の遊びといったところ。

ガレージには撮影時にモーガンが入っていたが、フェラーリでも、ロールスがガレージに入ってしまふ合うという人が想像できるだろう。つまりガレージも部屋の延長と考え、しっかりとしたコンセプトの元、壁紙、床材を選び空間を演出していることが分かる。しかも壁紙に汚れた付箋を避けるために、排気ガス排気システムEG WAYOUTを導入。強制的に排気ガスを屋外に送るので部屋のようなガレージは、いつもクリーンな状態を保っている。

使用する素材を慎重に選ぶことで、年月を重ねれ



02

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF KATO

ガレージ種に用意された趣味の空間。
そこには居住主・加藤氏が長年コレクションしている大好きな洋書、カバン、鞄といったものが空間を活め好きなものに囲まれるスペースを確保。ここで音楽を聴きながら読書する至福の時。



02

PLANNING DATA & MATERIALS

趣味を楽しめる家こそが
一生を暮らすにふさわしい住処。

ガレージでありながらもモールディングを使うなど部屋と同じ感覚で設計。天井から吊るされるのはアンティークな模型飛行機だ。



玄関へと続くサイドのドア横に、手を洗うスペースを用意。来客、そして奥に対しての配慮だ。

排気システムEG WAYOUTのシングルを導入。サイドマフラーのモーガンでも対応できる柔軟性をを持っている。



モーガンと同じカラーリングで、オーダーで依頼した自転車も所有。奥さまと近所に出かけるのは自転車。

ガレージに強ったタイルは、デザインをしてこだわったポイント。細かなこだわりこそ、加藤氏が求める美につながっている。

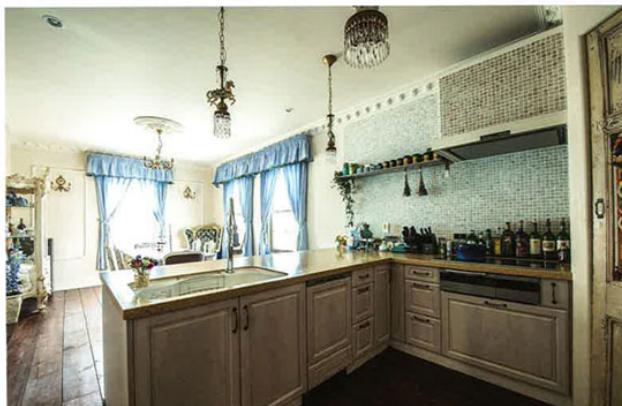
P PLANNING DATA
所在地・栃木県
施工主・加藤伯欧さん
施工日・2012年10月
構造・木造2階建て
延床面積・約24m²
ガレージ面積・約24m²
受注年・1965年式モーガン

レジデンダリーホーム・スクエア株式会社
東京都葛飾区赤坂八丁目14
パークコート赤坂ザ・タワー内
phone/03-3568-2142
板木屋・足利市稻岡町330
phone/0284-90-2187
<http://www.legendary-home.com/>

O OWNER'S CHECK
■一番気にしているところは?
クルマを眺めながら、趣味の部屋でくつろぐことができるところですね。趣味の空間にはコレクションを並べて、眺めるのが理想でした。
■ちょっと失敗したところは?
特にありません
■次の度はなんですか?
世界に向けてガレージを建てるビジネスを展開してみたいですね。
■読者へのアドバイスを!
まずは自分の好きなスタイルを見つけて、建築事務所に相談をするのがいいでしょう。そのためにも多くの作品、写真、本を見るをお勧めします。

ば重ねるほどゆっくりアンティークになり、珠玉の味わいを増すような家がコンセプト。そこにモダンなデザイン、素材を加えて自邸をつくりあげた。今のデザインと融合させ、時代に左右されない普遍性を生み出すことで、"幸せになる家づくり"をサポートして豊かな暮らしを送ることが「レジデンダリーホーム」の家づくりなのである。時代の流れを追わず、伝統的なスタイルを守り、天然素材の経年変化で風合いを増すことで、住まい手も歴史を刻む。自ら実践をして、お客様の要望に応える「レジデンダリーホーム」、気になる方は展示場、そしてアンティーク雑貨ショップ「SECRET GARDEN」に足を運んでみよう。きっと今までには体験できない新しい世界が待っているに違いない。

シンプルなキッチンは造作。タイルや透明白の壁が自然の風合いを出している。
エイジングされた質を使いなど毎年変化をあらかじめ再現している。



ガレージはどうしても工芸系な感じや、味気ない白なところがほとんどですが、最近は排気ダクトの進歩もあり、汚れを気にしない自由な発想があつても良いと思います。